

豊橋市自治連合会だより

第4号 発行部数119,500部

発行 豊橋市自治連合会 平成23年3月29日発行

事務局 市民協働推進課内 TEL 51-2484

協働のまちづくりを目指して

自治連合会会長あいさつ



豊橋市自治連合会会長
高木 繁

平素は自治会活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。自治会は地域のことを地域のみならず自ら治めていこうという住民自治組織であります。

主役は住民であり、住民の側に目を向けて、住民の意思を片時も忘れることのない自治会運営を心がけていかなければなりません。

それぞれの自治会にはそれぞれの運営の仕方がありますが、住民の立場から自治会を見ましたときには、自治会は一つではありません。そうしたことから、運営の根幹に関するような事柄については、どの地域においても共通であるべきと考えております。

本年度におきましても、そうした観点からこれまでに積み残した問題の見直しや合理化に取り組んでまいりました。

私たち自治会の活動は本来の住民自治活動から、行政協力活動まで、実に広範多岐にわたっています。そのため、さまざまな課題に直面する場面も多く、「地域力の強化」や「市民協働の推進」という大きなテーマの中で、力をあわせ、知恵をしぼり、明るく住みよい地域づくりを進めていかなければなりません。

地域の皆さんのより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。



副会長
村川 博美



副会長
鈴木 孝治



副会長
佐藤 庄一



中島晴美さんによる講演



平成22年度 定期大会開催 「提言「22定期大会」を採択」

平成22年6月25日(金)、豊橋市公会堂にて、本年度の定期大会が、多数の来賓のご臨席のもと、盛大に開催されました。永年にわたり、校区自治会長(8名)、町自治会長(68名)として活躍された方、また平成21年度で退任された校区自治会長(30名)、町自治会長(231名)へ感謝状が贈呈されました。続いて、平成21年度の事業報告と決算、平成22年度の事業計画と予算が報告されました。

さらに、本年度から自治連合会事務局が市民協働推進課に移管されたことを機に、より一層の協働のまちづくりを目指すことが盛り込まれた提言「22定期大会」が確認されました。

提言「22定期大会」

自治会運営の透明化の推進
効果的・効率的な自治会活動の推進
組織の強化と地域コミュニティの充実

その後、豊橋文化振興財団の芸術文化プロデューサー、中島晴美さんの「はじめまして、こんにちは」と題した講演がありました。中島さんは、地域文化の振興や活性化を図るために自治会活動の更なる充実に期待したい、と訴えられました。

最後に、「地域の力を結集し、地域づくりを進めていく」ということを、参加者全員で力強く確認し、閉会しました。

市長からの言葉



豊橋市長 佐原 光一

平素は市政にご理解とご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

さて、本市では地域の問題について校区単位ごに意見交換を行う「地域懇談会」を昭和51年度より実施しておりますが、本年度はできるだけ多くの校区を回りたいということで、自治会の皆様にも大変なご尽力をいただき、13校区で開催することができました。

私がこの懇談会でいつも感じていることは、市民の皆様が自分たちの住む地域のことを大変真剣に考えていらっしゃるということです。本市が平成21年度から二年をかけて策定に取り組みました「第5次総合計画」は、今後10年間のまちづくりの指針となるものであり、ふるさと豊橋のまちづくりに対する市民の皆様の思いを形にしたものです。「市民協働」や「地域力の強化」がうたわれる中、行政の立場として、皆様の真剣な思いにできる限り応えていくようなまちづくりをしていかなければならないと強く感じております。

これからも、まちづくりのパートナーである地域の皆様の声を直接お聞きする機会を積極的に設けてまいりますので、市政への変わりぬく支援とご協力をお願い申し上げます。

豊橋まつりは「やっぱり！クイーンだね」

豊橋はもちろん、東三河でも最大のまつりの一つ、第56回豊橋まつりが、10月16日・17日の両日、晴天に恵まれ、盛大に開催されました。

「市民がつくるまつり」を念頭に、私たち自治会も51校区からのクイーンの推薦

要望書提出

平成22年10月6日に、自治連合会は次の3項目について、市へ要望書を提出しました。

校区市民館の整備について

給水設備への夜間照明の整備について

市民の目線に立った事業内容の検討について（公開の場での事業仕分けなど）

それぞれの回答については第6回理事会にて報告されました。



左：高木会長 右：佐原市長

また平成22年6月30日には、教育行政への信頼回復について要望しました。これらはいずれも私たちの地域コミュニティ活動に深くかかわることであり、今後も住民の意見を行政に広く反映させたまちづくりを目指していきたいと思えます。

視察記

「市民協働のまちづくり」をテーマとして、5月に理事による管外視察を、また10月に常任理事による管外視察を行いました。

【理事管外視察】

相模原市

相模原市は東京・横浜などのベッドタウンとして人口が増え続け、平成22年4月に全国19番目の政令指定都市となっています。

人口約71万人と都市規模は豊橋市よりもかなり大きいのですが、かつて「軍都・養蚕の地」として発展した点や、清流・相模川を中心とした町のたたずまいなど、何かと豊橋と似通っています。

自治会活動全般についても、豊橋市と類似しており、抱える課題も共通する点が多々ありました。自治会加入率の低下、自治会組織の担い手不足、地域行事の参加者の減少、自治会役員の非継続性、地域の少子高齢化等々です。

ベッドタウン化や集合住宅の増大といった背景による自治会加入率（約67%）の低下に対する加入促進対策として、集合住宅等の開発行為事前協議の際に業者へのチラシ配布や、自治会への情報提供システムが構築されていました。

また近年、単位自治会（町自治会）の1/3くらいが新人自治会長という状況のため、平成21年度より「新任自治会長研修会」を開催しているとのことでした。

さて、今回の視察では「協働のまちづくり」をテーマとしていましたが、新指定都市「相模原市」における「まちづくり」市民協働の推進への取り組みには、熱意とエネルギーが随所に感じら

れました。

「さがみはらパートナーシップ推進指針」、「地域を元気にする検討会議提言書」、「まちづくり会議」、「街美化アダプト制度」、「地域活動事例集」地域力の達人」など、関連する方針

や制度等が数多く整備されています。「まちづくり会議」は豊橋市における「校区コミュニティ推進運営委員会」と類似のものと思われませんが、「外部構成員の参加可能」、「意識の浸透度、参加度など5年ごとの成果目標の設定」など、意欲的な考え方が盛り込まれていました。

「街美化アダプト制度」はあまり聞き慣れない言葉ですが、「アダプト」養子にする」という意味で、市民が公園や緑地、道路等を養子のように慈しみ、世話をし、その行為について市が支援する、といったパートナーシップによるまちづくりの実践制度のことです。

「市民協働によるまちづくり」はまず意識の普及・啓発、そして、活動推進のため環境づくりが重要であるといふことなど、いくつかの示唆を感じた視察でした。



相模原市視察



さまざまな方法でまちづくりを案内する相模原市

や交通安全パレードなど、積極的に豊橋まつりへ参加しました。

クイーンは、三菱レイヨン(株)豊橋事業所提供のラズベリーピンクのワンピースと白のショートジャケットを身にまとい、「ロコ・モーション」の曲に合わせて、おなじみの鈴木馨先生振り付けによるダンスを披露し、存在感をアピールしました。クイーンは、ダンスコンテスト、「こども総おどり」、「総おどり」、「パレカ」など、二日間にわたり数多くのイベントに参加しました。

中でも今年初めて開催された「こども総おどり」では、クイーンと一緒に踊る子どもたちの楽しそうな笑顔が印象的でした。それにしても、クイーンが登場すると、どの場所もすごい人の波、カメラの波！



こども総おどりの輪に加わるクイーン(広小路三丁目)



ダンスコンテスト(豊橋球場)



交通安全キャンペーン(豊橋球場)



パレカには各校区自治会長も参加(松葉町一・二丁目、広小路三丁目)



理事とクイーンの記念撮影(公会堂前)

地元の皆さんに愛されるクイーンの姿を見て、豊橋まつりと言えぱ、やっぱりクイーンだね、ということを、あらためて実感しました。

【常任理事管外視察】

生駒市

生駒市は、奈良市の西隣のまちで、古都・奈良の一角といつてよい歴史のある町です。現在は大阪、京都の中間に位置するベッドタウンで、人口は約12万人、豊橋市の約1/3ほどです。

自治会数は豊橋市の1/4ほどですが、自治会の組織は酷似しており、単位自治会(町自治会)、校区自治会、ブロック代表理事(常任理事)、執行部という組織体系は豊橋市とほぼ同じです。

相違点として目についたのは、生駒市自治基本条例があり、これをまちづくりの最高規範としている点です。豊橋市にはそういったものはありませんが、豊橋市市民協働推進条例が代替していることになるでしょう。

「生駒市自治基本条例」(平成22年4月施行)の中では、市民自治協議会の設置を規定しています。この協議会はさまざまな主体で構成される市民自治活動を行う組織であり、行政がその主体性と財政的な支援を行う旨をうたっています。

ただし、この協議会はまだ具体化していないため、生駒市自治連合会では市



参画と協働のまちづくりを推進中の生駒市



生駒市自治連合会会長のあいさつ

は大変新鮮でした。

平成21年度より連合会会長に就任し、「地域力の向上にむけて」をメインテーマとして取り組んでいるとのこと。「地域の結びつきの希薄化」、「自治会組織・事業の継続性」等の問題に懸念を示されていました。

「市民協働の推進」ということに関しては、まだ整備し始めた段階という印象でしたが、行政と自治会が連携して真剣に「参画と協働のまちづくり」に取り組んでいること、そして、女性会長を中心に結束した自治連合会のバイタリティが伝わってきた生駒市、有意義な視察でした。



生駒市の伝統産業「高山茶せん」

このほか、豊橋市内に新しく建設された「北部学校給食共同調理場」、「ほいっぷ(保健所・保健センター)」の2か所の視察を7月に実施しました。

市長と語り合う 地域懇談会

地域懇談会は、それぞれの地域が抱えるさまざまな話題や問題について、地域住民と市長が膝を交えて意見交換を行うというものです。本年度は市内13校区12か所で地域懇談会が実施されました。

- 平成22年度 実施校区
- 6月 花田
- 7月 多米
- 8月 前芝、芦原、大村、中野
- 11月 津田、牟呂・汐田(合同)、鷹丘
- 12月 高師
- 1月 玉川、松山



住民と市長が意見交換
(写真は芦原校区地域懇談会)

このうち8月中旬に実施された芦原校区地域懇談会では、住民がプロジェクトを使い、健康の道「芦原歴史探訪コース」の設置について、情緒豊かに解説し、歴史ある校区の紹介が行われました。そのほか福祉施設の整備、防災対策の話題などが取り上げられ、さまざまな角度から討論が行われました。どの校区の会場にも大勢の地域住民が訪れ、今後の行政施策に反映してもらおうと活発な意見が交わされ、いずれも実りある懇談会となりました。

みんなが楽しく参加 地域イベント

それぞれの地域では、地域のコミュニティが主体的になって実施するさまざまなイベントが開催されています。こうした住民同士の交流の場を設けることで、地域社会の活性化が図られています。



夏まつり(牛川校区 8月)



防災訓練(下条校区 11月)



文化祭(大崎校区 11月)



校区創立30周年記念式典で合唱する地域の子どもたち(芦原校区 12月)



体育大会(八町校区 9月)



春まつり(野依校区 3月)

平成22年度 豊橋市自治連合会事業報告

重点推進事項

- 一 明日の豊かなまちづくり
市民館を拠点に地域のコミュニティ活動の実施など
 - 二 安全で明るい市民生活を築くまちづくり
街頭立ち番の実施による交通安全市民運動や防犯活動の推進など
 - 三 青少年が健康で明るく育つまちづくり
パトロールの実施、非行防止活動など
 - 四 地震等災害から市民を守るまちづくり
自主防災会の充実と防災意識の高揚など(総合防災訓練への参加、地域防災講習会の開催など)
 - 五 美しく住みよい緑のまちづくり
530運動や愛市憲章の実践と啓発など
 - 六 明日の快適な暮らしのために
資源保護のための自主的な活動の推進など
- 一般推進事項
- 一 受託業務の実施
「広報とよはし」配付など市の業務について業務委託契約を締結
 - 二 豊橋まつりへの参加
自治会よりクイーンを選出し、イベントなどへ参加
 - 三 共同募金、歳末たすけあい運動などへの協力
 - 四 地域で献血運動への協力など
- 特別推進事項
- 一 自治会活動の充実と活性化の促進
 - 二 市民協働によるまちづくりの推進
 - 三 創立60周年記念事業計画の立案

アンケートによる情報交換を実施

業務検討委員会より報告

定期大会の提言を受けて、自治連合会では「業務検討委員会」を設置し、自治会活動の実態調査、問題点の分析・検討等の作業を行っています。

本年度は「体育振興行事」と「成人式」について、各校区自治会へアンケート調査を行い、それぞれの地域での実施内容を取りまとめ、情報交換の資料として役立てました。

編集後記

「自治連合会だより」は日ごろの自治会活動をわかりやすくお伝えするために発行しております。ホームページでも私たち自治会の活動を紹介しますので、ぜひ一度ご覧ください。

<http://www.toyohashiichiren.jp/>



広報委員会編集風景

編集委員 鈴木佳和 三井新太郎
田中 稔 牧野強太郎
坂柳伸浩